



石内 國雄

町の包括ケアシステムの 取り組みは

町 地域ケア会議で連携体制を構築していく

が重要となる。

Q 政府の本年度予算は、包括ケアシステムの構築を後押しする予算となっている。町の包括ケアシステムの取り組み状況は。

〈町長〉 地域ケア会議を通じて、地域の関係機関や住民、民間事業者などさまざまな関連団体を巻き込み、連携体制を構築していきたい。住民主体の「ふれあいの居場所」で、出番や役割による生きがいづくりが健康寿命の延伸につながり、介護予防や認知症予防に結びつく。介護予防を積極的に推進したい。元気な方々を支える側に回ってもらう取り組み

Q 介護の予防や現状維持だけでなく、要支援からの卒業そして支える側となるような発想での取り組みを求める。

〈町長〉 参考にしていく。町の東西を走る東毛広域幹線道路が開通した。南北幹線である藤岡大胡線バイパス（上飯島く岩倉橋）の整備計画の現状は。また、沿線の土地利用、使用目的変更をどう考えているか。

〈町長〉 「はばたけ群馬・県土整備プラン」では、南北幹線は平成34年までに着手するとされている。東毛広域



幹線道路が平成29年に4車線で全線開通となる見込みであることから、これ以降早期着手を要望していきたい。この沿線の今後の土地利用については、整備

の時期や交通状況、社会状況が影響する。地域に即した利用を詳細に検討し、バランスのとれた土地利用を今後検討したい。

東毛広域幹線道路開通に伴う 新たな交通体系を

町 南北幹線や利根川新橋の整備について 引き続き県に要望していく



宇津木 治宣

Q 念願だった東毛広域幹線道路（以下「広幹道」）が暫定2車線で開通した。高崎玉村スマートICの開通と合わせて、地域経済の発展に大きく寄与するものと歓迎したい。広幹道を横断する通学路や農耕車両の安全対策は万全か。

〈町長〉 各学校において、地区懇談会などで保護者や地域の方々と協議してきた。その結果、新設された玉村宿横断歩道橋やカルバートを使って横断するように通学路を指定した。開通後初登校となる9月1日には職員が交通指導を行い、安全に登校できるか確認した。また、農耕車両については、要所に信号機が設置されている。4車線化に合わせて、引き続き設置を要望する。

Q 交通体系はどうなる。

〈町長〉 東西を結ぶ幹線が開通した。今後は、南北を結ぶ齊田上之手線や町道220号線、町道2077号線を早期供用する。また、藤岡大胡線や与六分前橋



原 秀 夫

ますます重要となる防犯対策 体制を充実させる施策は

町 警察・住民・行政が一体となって
犯罪・交通事故等の減少に取り組み

Q 玉村町には、大
学・高校・中小
学校・幼稚園・児童館
などがあり、来春たま
むら道の駅（仮称）も
開設する。町が都市化
していく中で、防犯体
制の充実はますます重
要となる。近年の犯罪・
交通事故等の発生件数
は。

〈町長〉 犯罪件数は、
平成19年が493件、
平成25年が268件で
5割強の減となった。
また交通事故件数は、
平成19年431件、平
成25年は266件と、
約6割減少した。これ
は、玉村町交番を初
め、町民の安全意識に
対する努力の成果であ
ると感じている。また、

現在「防犯活動ボラン
ティア団体」9団体が
活動している。

Q 玉村町交番の場
所がわかりづら
いが、移転を考えてい
るか。

〈町長〉 平成6年に現
在の場所へ移転した。
主要幹線道路へのアク
セスもよく、町内のど
こへでも短時間で行け
る利点があるため、移
転は考えていない。

Q 警察署を新設す
る考えはないの
か。

〈町長〉 現行の交番体
制で十分機能を果たし
ている。

Q 交番の増設を望
むが。

〈町長〉 地域的なアク
セスもよく、組織機
構（指揮系統も1カ所）
も手厚いものとなって
いる。

Q 「住民自治のま
ちづくり」に関
する調査結果は。

〈町長〉 平成25年に町
民満足度調査を実施し
た。1000名対象で

回答は452件。満足
度が高いものは、「ご
み処理」「上下水道」「保
健・健診」「小中学校」
「保育所・幼稚園・児
童館」であり、低いも
のは「道路」「地域医療」
「防災」「防犯・交通安
全」等だった。今後は、
調査方法も部門的に考
えていく。



玉村町交番



線、利根川新橋などの整備
について、引き続き県に要
望していく。

Q 広幹道の平面化に
よって、沿道の開発
が期待されるが。

〈町長〉 沿道は市街化調整
区域である。専門家の意見
を聞きながら進めたい。

Q 介護予防給付が打ち
切られる要支援者へ
の対応は。

〈町長〉 町では、要支援1・
2の方で訪問介護や通所介

護を利用している方々に、
住民主体の組織やNPO法
人、民間事業者、介護事業
所など地域の多様な担い手
による「総合事業」を進め、
対応する。

Q ふれあいの居場所と
は。

〈町長〉 地域の絆の中で高
齢者も担い手となり、生き
がいや役割を通して健康寿
命を延ばすことが期待でき
る。



東毛広域幹線道路（玉村伊勢崎バイパス）開通式